

タイコブラ, *Naja kaouthia*, などのおもに生態についての聞き込み情報

西村昌彦

Information Gathered in Interviews on Ecology of the Monocellate Cobra, *Naja kaouthia*

Masahiko NISHIMURA

Key words: Interviewed information, Ecology, Escaping snake, Native countries, *Naja kaouthia*

I はじめに

沖縄県では1993年と1994年に、名護市の伊豆味街道添いに、周辺の観光施設から逃げ出したと思われるコブラが計7匹出沒し、周辺の住民にとって脅威となっている。野外で傷みが少ない状態で採集された1個体と1業者が1993年に処分した50個体は、タイコブラと推定された¹⁾。コブラは、いまだ未発見のもの残存、さらには沖縄島への定着の可能性があり、その対策として捕獲調査や啓蒙活動などが必要である。それらの作業にとって、本種の生態について、できる限り情報を集める必要があるが、文献調査ではわずかな情報しか得られなかった。ここでは、筆者が、海外研修でタイ(おもな生息地)とマレーシア(輸出国)を訪れたさいに面談と手紙で連絡できた研究者や、国内の爬虫類の研究者などに面談して入手できた情報を記す。

II 結果

以下に、各情報提供者から得た情報を記す。ことわらないかぎり、タイコブラの野外における生態などについての情報である。

1. タイとマレーシアにおける情報

研修期間は、1995年2月20日-3月7日であった。Montri Chiobanroongkiaf (Queen Saovabha Memorial Institute, Thai Red Cross) 餌はカエル(ヒキガエルを含む)・ニワトリ・ラット。10月-12月に地表で交尾し、12-4月(おもに1月-3月)に産卵する(訪問時に室内で抱卵中の雌を見た)。おもに夜行性で、日中はラットのトンネルに隠れる。樹にも登る(筆者はこの研究所内の野外飼育場で葉に包まれた灌木に登っている数個体を目撃した)。この研究所では、搬入後2、3カ月で死亡する個体が多い。Jarujin Nabhitabhata (Ecological Study Department, Thailand Institute of Scientific & Technological

Research)

雨期のあと水位が適度に下がると魚を食べ、他にラットやその他のネズミ・ヘビ・カエルが餌。天敵はいない。卵を発見したのは、1月のみ。薄暮から真夜中に活動するが、雨が降ると日中も活動する。雨期には高所に移動し、稲の収穫期の秋には水田にいる。採集人は、収穫後の水田などにある穴に棒を突っ込み、威嚇音があれば掘って採集する。1日に0-3個体を採集する。雄より雌が大きい。フードのマークは円一つが多いが、円の両側に横線がある個体もいる。体色が淡い個体ではマークが不明瞭。定住性はないらしい。全長1m。

Wirot Nutphand (Pata Zoo Office, Thai Zoological Center)

餌はラットや他のネズミ、カエル、ミズヘビ(water snake)、魚、ニワトリ。天敵は、マングースや鳥。他のヘビ同様冬に交尾し、産卵期は2-6月で、産卵数は15-25、卵期間は45-60日。夜行性で、まれに樹に登る。ジャングルでなく、開けた場所付近に多い。よく見かけるのは、長さ1.5mで、最大は2m。まれに胴にも白斑を持つ個体がいる。フードのマークは、円のみ・円の横に横線・円はなくギザギザの横線のみ・横に連なった二つの円など多くの変異あり。タイでは、中央部の西にある高地を除き、全域に分布。タイコブラでないが、筆者は、black & white spitting cobraの隠れ場所として、タイ西部のキビ畑のあちこちにある小哺乳類のものと思われる穴を紹介された。

Chai Koh Shin (Zoo Negara Malaysia)

餌は、小さい個体はカエルと小魚、親はラットと他のネズミ(水田で収穫のあと)や魚(水がある時)・カエル。魚は泳いでいるものを食べる。天敵として、マングース・フクロウ・タカなどが考えられるが、ヘビ食いのキングコブラとは、生息域が重ならない。産卵期は野外で10月-3月、卵期間は室内にて51-65日、産卵数は

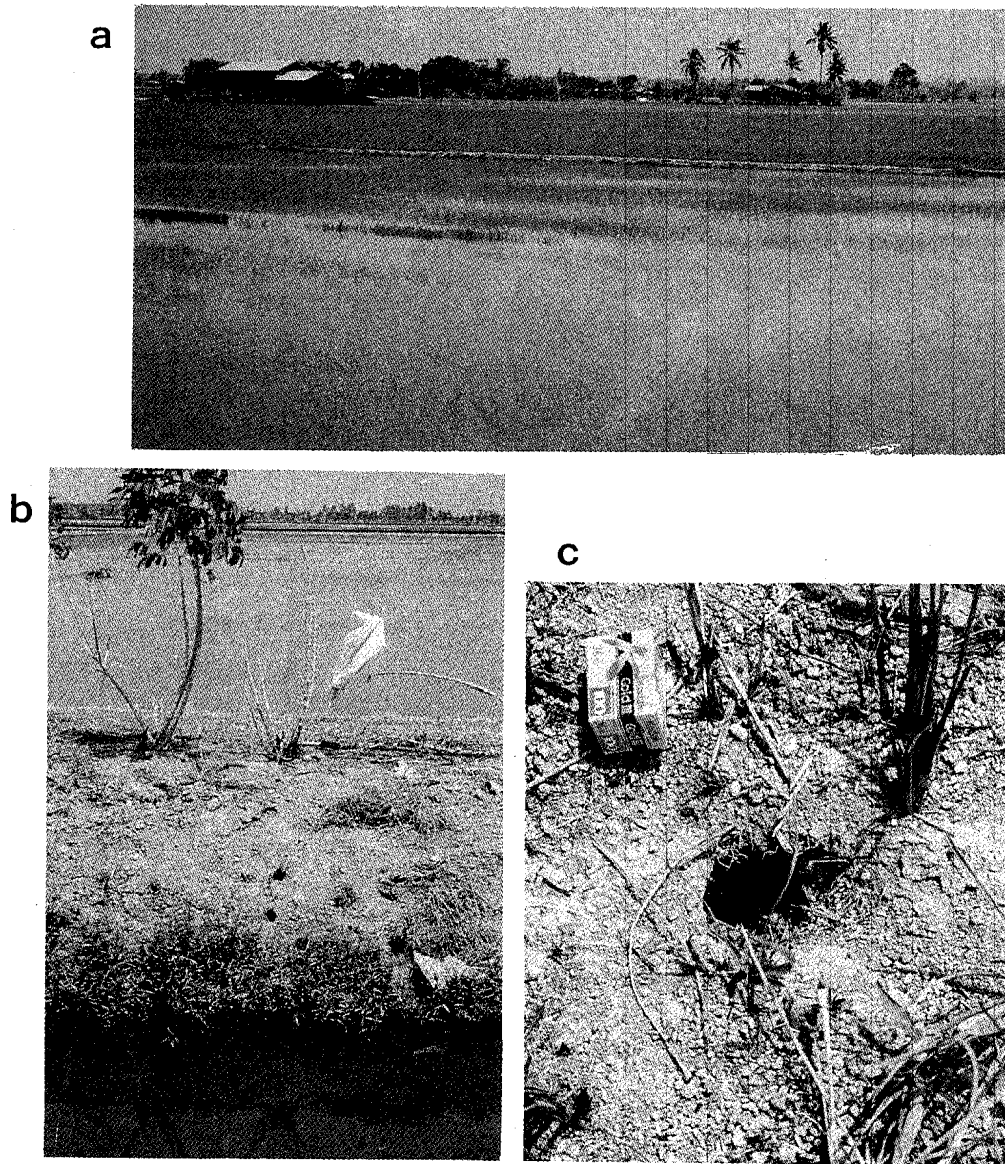


図1. マレーシアの Kuala Selangor 近くの Tanjun Kalang にあるタイコブラが生息する水田(a).
水田の水路の壁面にあるネズミなどの穴(b, c).

10-21. 隠れ場所は水田の畦や水路にあるラットのトンネルやカワセミ類が掘った穴(直径5cmあまり)で、採集人(マレーシアではほとんどがプロで、一般人は捕らない)は、日中に棒でコブラの威嚇音をたよりに、多い日は5匹あまりを採る。一つの穴に2, 3個体入っていることもある。筆者もクアラランプールの西北の Kuala Selangor 近辺にある、田植え前の大規模な水田で、水路の畦にネズミが掘ったと思われる穴を、あちこちに目撃し(図1)、かつ、水路ぞいに、カワセミの仲間も数個体目撃した。

樹登りはまれ。水田に多く、アブラヤシ林には *Naja sumatrana* が多い。とにかく、開けた場所(農地、藪、居住地域)に多く、天然林には高度を問わずいない。湿

地(アマガサが生息)にも少ない。夜に活動。頭胴長1m(約4才)で成熟。現在マレーシア北部から南下して分布を拡大中で、1995年現在でクアラランプールのすぐ北まで南下。近年の輸出先は沖縄のみで、タイからマレーシアへは最近は入ってこない、東南アジアからのコブラの輸出は、以前ヘビの血が強精剤として人気が出たときに、タイから香港と韓国へ出したのが始まり。

沖縄島の野外で発見されたコブラが、沖縄で生まれたものか否かの判定に、コブラの寄生虫が使える可能性がある。つまり、マレーシア産のコブラには、現地の寄生虫が付き、それは、おそらく沖縄島で育つコブラに付くものとは、異なるというわけである。ただし、東南アジア産と沖縄産のヘビの寄生虫は、共通種が多いとのこと

である(琉球大学, 長谷川英男氏私信)。

Lim Boo Liat (Malaysian Nature Society Office)

孵化直後と思われる個体の斃死体を5月と11月に発見したことあり。山地より, 人里の森や開けた場所に多い。マレーシアでは, 半島内の北部に分布(Kedah州, Perlis州), ヘビのディーラーが逃がしたのでは。半島中央部にいる小さいディーラーから, KedahやAlor Starにいる大きいディーラーに集められる(おもに食用)。タイコブラは体が大きく毒吹きしないため, 食用と皮加工用として人気がある。いくつかの大きいディーラー(Perlis州かSelangor州)が, 沖縄, 日本, 香港, 台湾, 韓国へ輸出する。多くは, タイから密輸される(Perlis州かKedah州のディーラーによる)。タイ北部にも分布することから, 亜熱帯の沖縄でも適当な生息場所さえあれば繁殖するだろう。マレーシアでもクアラ Lumpur近くで発見される個体は, 人為分布と思われる。本種などのヘビは, ラットをコントロールする効果も持つ。輸出にさいしては, 寄生虫などを伴わないように注意する。

2. 国内の研究者などから得られた情報

大谷勉(高田爬虫類研究所沖縄分室)

(沖縄での飼育経験から) ヒョコよりマウスをよく食べる。餌を打咬後離さない。12月, 1月が交尾期, 産卵は春(4月)。雌は連続年に産卵。日光浴, 木登りあり, 暑いときは水浴。タイからマレーシアへの密輸は近年は困難になる。

寺田考紀(玉泉ハブ公園)

孵化個体は, ピンクマウスをよく食べる。マレーシアから搬入された個体の産卵期は, 11月-2月。この季節の搬入時に, 卵による下腹部の膨れが目立つのは, 数個体/200個体/1回。

許田昇(リドー商事: 沖縄でコブラを輸入)

マレーシアで採集人は, 山に入って採集する。沖縄では, 大きすぎる(体重1kg以上)個体は敬遠されるため, 現地でサイズをそろえて輸出する。クアラ Lumpurから, 大阪または成田経由で那覇に入る。現地からのファクスでは, 産卵期は9月-1月で, 14卵を産むとのこと。

山内修行(日振動物)

数年前に, 沖縄島で2度にわたり, タイワンコブラを1個体ずつ目撃した。最初は, ウナギの養殖場跡地の草

が茂った場所で, 発見個体を捕獲したが, 2度目は目撃のみであった。

森ロー(日本蛇族学術研究所)

(タイコブラとタイワンコブラについて) 飼育個体は, 日中は餌を与えないと, 隠れ場所から出ない。群馬県の研究所で飼育中の個体は, タイコブラは10, 11, 3月に, タイワンコブラは5, 6, 8月に産卵した。国内の動物園では, 事故をおそれ近年は飼育しない。香嵐渓で数年前までタイ人にショーをやらせていた。中国では, ネズミを捕ろうとして蛙の穴に手を突っ込み咬まれることが多い。

III 考察

タイとマレーシアで, コブラ採集人から直接話を聞けなかったことは残念であるが, 上記の情報提供者は, いずれもコブラについて経験豊富な人である。もちろん, ほとんどの情報は, データを吟味した結果に得られたものでないため, そのまま信頼するのは危険である。ただし, 本種のような脊椎動物の生態に関して, まとまったデータが容易に得られる可能性は低く, 本稿で示した情報は当面の抛り所となろう。とくに, 産卵期や産卵数に関する情報は, 信頼性が高いと思われる。また, 一部の情報提供者の話のように, タイコブラのおもな生息地が山や天然林でないとする, 本種が万一沖縄に定着しつつある場合でも, 山林地域で増殖しないため, 人手によって根絶できる可能性が残る。今後は, 沖縄で得られるデータなどを用い, 上記の情報を吟味したい。

<謝辞>

文中にあげた情報を提供していただいた各氏と, その紹介者である太田英利・鳥羽通久・疋田努・野崎真敏の各氏, ならびに, タイ語を教えていただいた Juthamas Kettad氏やタイでお世話になった Suparat Tawarotip, Jutatip Wangsai 両氏をはじめとして, 研修中やその前後にお世話になった多くの方々に, 感謝する。

III 参考文献

- 1) Shiroma, H., Katsuren, S. and Nozaki M. (1994) Cobra species in Nago, Okinawa. Ann. Rep. Okinawa Pref. Inst. Health Env., 28: 89-93.